Vol.13 2019年4月号
ご自由にお持ちください Take Free
魚沼市・十日町市・津南町・南魚沼市・湯沢町&周辺

越後魚沼 ―地域探訪―

北越雪譜を世に出した鈴木牧之とは p2-3

花の雪国をめぐる春ガイド p4

Thanks to Snow／ディスカバー越後魚沼

「かはたれ時の水鏡」

「たそがれ」を知らない人はいないけれど、明け方をさす「かはたれ」を知る人はほとんどいません。そこが言葉の面白さかと思います。

山の上から魚沼盆地を見下ろすと、かはたれ時の空は赤紫に染まっていました。折しも水を張った田は、その色を映して街並みが浮かんでいるように見せてくれます。

2017年8月発行の「雪ありて」（下写真）は、やはりここから撮ったものでした。季節によってこんなにも変わりますが、美しい空と山並み、水田の間を流れる魚野川は変わることがありません。

編集部　酒井　建

季節の花

猩々袴（ショウジョウバカマ）画・外山康雄

ユリ科　地元では「オコメシバナ」と呼ぶ。オコメシは「おこわめし・御強飯」、おこわは小豆で色着けした糯米を蒸した飯、赤飯。オコメシバナの花弁を赤飯の赤、雄蕊の黒色を赤飯に振りかけた黒胡麻塩になぞらえた。また「ノリツケバナ」や「ミズバナ」など別の呼び名も多い。

●編集部／株式会社みらい内 〒948-0065 新潟県十日町市高田町3丁目304-2　☎025-752-0350　●メール yukiarite@gmail.com
●発行所／北越印刷株式会社六日町営業所　〒949-6680 新潟県南魚沼市六日町479番地3 テルエルクボタビル3F　☎025-788-0891／本　社：新潟県長岡市南陽2丁目949-8　営業所：東京・新潟・上越・六日町

北越雪譜を世に出した鈴木牧之とは

「忍」の文字は心の上に刃があるから自由に動けない。だから、シノブ、ツツシム、コラエル。つねに忍の精神を強調し、勤勉に働くこと、倹約することなど、堪忍の生き方が人として大事であると通した人、それが鈴木牧之（ぼくし）、本名を鈴木儀三治（ぎそうじ）といった。

牧之は、一七七〇（明和七）年に魚沼郡塩沢組塩沢村に生まれた。塩沢組は上州との境となり、江戸と越後をつなぐ三国街道が通り、鈴木家は街道沿いに建っていた。

牧之は俳号である。俳諧や文芸好きの父・牧水を敬い見習った。父親は、本家より分家して縮の仲買人を始める。その後、質屋業へと移り、牧之の代で財産を三倍に増やしたと記録されている。

それは、先に記した通り勤勉に働くと説いた牧之の姿勢の結果である。質屋業ということもあり金銭の取扱いには厳しかった。

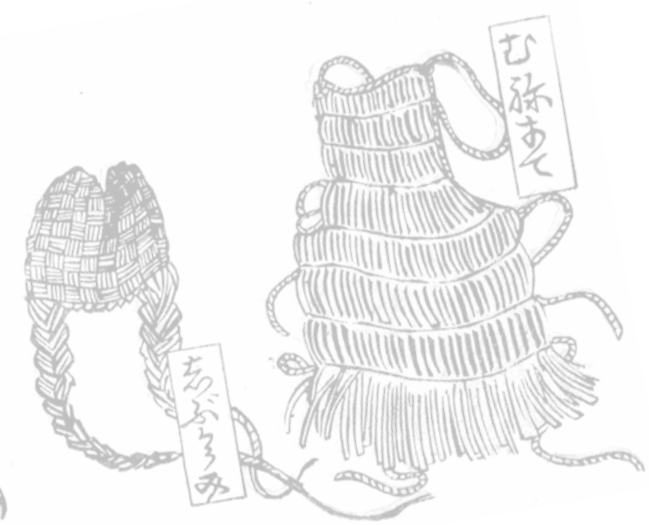
牧之の性分は、常に家の中のことは把握する。掃除、片づけ、小物は箱に入れて整理する。（箱作りは好きらしい。）何事も分類して整理し、リスト化してファイルする。また自分の仕事内容の帳面を付けていた。いつ行うか、急ぎかどうか印を付けて一覧にして仕事をこなす。身に着けるものすべて両親から譲り受けた物を大事に使い、質素倹約を通した。食事は早食い、簡単な表具、大工仕事は自分で行う。牧之は「一家の為に心の及ぶかぎり世話を焼き、家業第一で存分に仕事をしなくてはならない。」と細々と自分のことを記している。

また、牧之の近所の評判は「鈴木の亭主はいつも堪忍堪忍といいながら、金銭の欲には堪忍しない。」といわれた。牧之は、質屋という稼業はそういうものだと反論し、厳しい取り立てを行っていた。しかし世の中全体で百姓が困窮している時は慈善行為に動く。包み金や、米の確保を行い、働いて得た利益を社会に還元し、人々の救済のために奔走した。

▶掘除積雪之図（つもりたるゆきをとりのくるづ）

◀屋上雪掘図（やねのゆきほるづ）

▲山中異獣の図（さんちゅういじゅうづ）



Thanks to Snow　A Dragonfly in Heaven

土井ひとみ　*Hitomi Doi*

Some of you might wonder what the title of this column means. Thanks to snow is the translation of the title of this free paper, *Yuki Arite*. Actually *Yuki Arite* is a very poetic expression from the book *Hokuetsu Sepu* written by Suzuki Bokushi about 200 years ago. Then what is a dragonfly in heaven? It's a Japanese phrase about someone who lives happy-go-lucky. So the idea is I have a pleasant life here because of snow.

I strongly believe snow makes this area very unique and hence attractive. Everything good is connected with snow such as: rice, sake, vegetation, kimono and a very distinctive culture and life style.
I fully understand the hardship of winter with so much snowfall. I grew up here. Still, when I think about my childhood, most of the best memories are connected with the snowy winter and the vibrant spring that such winter brings.

When the book was written, their winter was much harsher. Nevertheless, Suzuki Bokushi wrote "Snow gave birth to *chijimi* fabric." He knew that without snow, the *chijimi* and thus the World Intangible Cultural Heritage would not even exist.

How can we be negative about the wellspring of our existence?

ほとんど見過ごされていると思うが、このコラムの副題 A Dragonfly in Heaven ってなんでしょう？
答え：極楽とんぼ。否定的な意味合いもある言葉らしいが、おいしい物やおもしろいことがたくさんある雪国で、のんびり幸せに生きています、という思いをこめた。
北越雪譜が書かれた 200 年前、この地方での初雪は9月の末から１０月の初めだったという。冬は現在より確実に2ヶ月長かった。当時の暮らしは、天国からはかけはなれていた。鈴木牧之自身が「江戸に住んで…梅や柳を見ながら春（正月）を迎えられることは、天から与えられた幸福」と書いているくらいだ。
だがその同じ筆で牧之は「雪ありて縮みあり」という美しい詩を著した。雪があるからこそ存在するすばらしいもの。そのことを江戸時代から、いや正確には太古の昔から人々は知っていた。だからこそ人類はこの地に住み、美しいものを生み出してきた。
今も雪国に暮らしその美しさを感じられることは、なんて幸せなことだろう。

▲『北越雪譜』初版本

先ほどの仕事の帳面には夜の作業も記載され星印をつけていた。書画、文芸執筆の時間帯であった。

皆さんご存知の北越雪譜は、二十代の牧之の構想から始まっている。私たちの住む豪雪の地は暖国とは異なる暮らしがある。雪中に生き、雪中で生涯を終える自分たちの様子を伝えたかった。

勤勉さと堪忍大明神を祀るほどコラエル姿勢が、牧之の思いを押しささえていた。それは「雪の本（北越雪譜）」出版という祈願であった。

●

出版は長い道のりであった。江戸の山東京伝に依頼、そして苦渋の断念、続いて岡田玉山、鈴木芙蓉といった著名人に託すが実現しない。牧之が四十九歳、滝沢馬琴と出版交渉が始まった。翌年の冬、牧之は上・中越地方を取材し、この年、上京して馬琴と会う。その後十年以上も原稿を送り続けるが、出版は実現しない。

山東京山より出版の申し出がある。京山は最初に依頼した京伝の弟、京山と雪譜出版を目指す。まさに忍の心である。

●

北越雪譜は完成まで四十年という年月をかけて一八三七（天保八）年初編の三冊が出版した。やっと満願の思いが実を結んだ時、牧之六十八歳であった。病気を患い療養し、大分弱っていたが、売り出された本は評判が評判を呼んで続編の依頼もきた。牧之の喜びもひとしおであり、「今死んでも思い残すことはない」と友人に手紙を送っている。まさに一生涯をかけた大仕事であった。

北越雪譜は依頼した江戸の文人の都合で、もしかすると世に出なかった可能性もあった。だが、牧之の生前に出版のタイミングがすべり込んだのは、牧之の忍の心の賜物であろう。

全七冊のうち、七十二歳で二編の春の編が売り出され、翌年、原稿をすべて出した牧之は七十三歳で没する。没後、残り三冊が売り出される。

●

明治まで版木で摺られ、一九三六（昭和十一）年に活字化されると、全国に広まり、雪といえば『北越雪譜』といわれるようになった。

昭和になると牧之の顕彰事業が盛り上がる。牧之座像制作、記念碑・句碑建立、雪譜まつりの開催、鈴木牧之記念館建設、そして牧之通り完成。牧之と名のつく様々な商品が出来ている。今のこの様子を牧之が見ていたらリスト化してファイルするに違いない。

鈴木牧之記念館

◆鈴木牧之
生没年：一七七〇（明和七）年～一八四二年（天保十三）享年七十三歳
職業：地主商人（縮仲買、質屋業）
趣味：文筆、俳諧、書画、箱作り
友人：山東京伝・京山、滝沢馬琴、十返舎一九　他、全国に交友者あり
代表作品：北越雪譜、秋山記行、夜職草、秋月庵発句集

北越雪譜の中で描かれた牧之の姿▶

▲牧之の句碑

［碑文内容］

越後縮

雪中に糸となし　雪中に織り
雪水に洒ぎ　雪上に晒す
雪ありて縮あり　されば
越後縮は　雪と人と　気力
相半して名産の名あり
魚沼郡の雪は　縮の親といふべし

鈴木牧之著　北越雪譜より

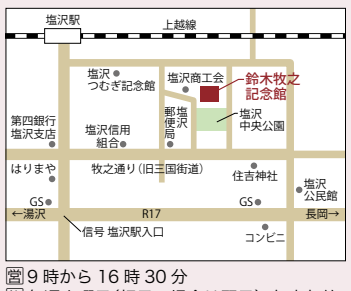
◀北越雪譜之碑
昭和四十四年に開催された牧之生誕二〇〇年祭の記念に建立

鈴木牧之記念館ごあんない

『北越雪譜』の初版本をはじめ、江戸の文人との交流資料や、当時の秋山郷の様子を記録した「秋山記行」資料を展示しています。

また雪国越後の民具や雪に関する資料、ユネスコ無形文化遺産で国の重要無形文化財でもある「越後上布」の製作工程なども展示しています。

▲記念館は木造二階建て



営 9時から16時30分
休 毎週火曜日（祝日の場合は翌日）年末年始、燻蒸期間休館
¥ 大人：500円、小・中・高校生：250円

鈴木牧之記念館
〒949-6408 新潟県南魚沼市塩沢1112−2
TEL & FAX 025-782-9860
http://www.6bun.jp/bokushi/

ディスカバー越後魚沼

雪国の香る樹木、タムシバ

雪解けが進むブナ林を歩いていると、ふいに甘く爽やかな香りを感じることがあります。周囲に目をやると白く大きな花をたくさんつけた低木「タムシバ」がみつかります。タムシバは日本海側多雪地の落葉広葉樹林の林縁に普通にみられるモクレン科の樹木です。多雪地では低木状ですが、少雪地では高さ10m近くまで育ちます。雪解けと共に直径10cm程の芳香のある花を開き、葉は花が終わる頃に展開し始めます。蕾は灰色でふわふわの毛に覆われます。

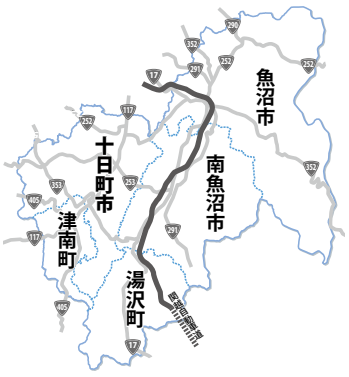
タムシバの際立った特徴の1つは「香り」です。例えば、白い花びら（花被片）には甘い芳香があり、（新鮮な花ならば）噛むと洋梨のような香りが口いっぱいに広がります。また葉や枝にも強い芳香があり、ちぎったり噛んだりすると爽やかな香りが漂います。山仕事をする人たちはタムシバの枝や葉を噛んで疲れをとったと言われ、そこからタムシバの名が生まれたとされます（「噛む柴（カムシバ）」→タムシバへと訛った）。葉や枝を刻みハーブティーとして香りを楽しんだという話も聞きます。生薬の世界でもタムシバは古くから活躍しています。花が咲く直前の蕾を採集し乾燥させたものを「辛夷（シンイ）」と呼び、頭痛や鼻炎、蓄膿症への薬として使われてきました。

何故、タムシバは芳香を持つのでしょうか？　その謎を解く鍵はなんと1億年前（白亜紀）の地球にあるそうです。白亜紀と言えば恐竜が栄えていた時代です。当時、地球上にはハチやチョウの仲間はおらず、花粉の運び手となる昆虫はもっぱら甲虫でした。立派なアゴをもつ甲虫は、花粉だけでなく植物体もかじってしまいます。甲虫からの食害を防ぐため、タムシバの祖先は防虫効果を持つ香りを植物体に宿すようになったそうです。

現在でもタムシバの花には数多くの甲虫が訪れますが、香りのためかあまり食害されていません。雪国の春を彩る樹木タムシバ、その香りには太古から続く昆虫とのせめぎあいの歴史が秘められています。

里山科学館「森の学校」キョロロ

花の雪国をめぐる



©苗場山麓ジオパーク振興協議会

中魚沼［十日町市・津南町］
里山輝く

1**美人林**（十日町市・松之山松口）樹齢約100年のブナの美林。4月下旬～5月上旬頃は眩しい新緑に覆われます。問松代・松之山温泉観光案内所 ☎025-597-3442
2**石落し**（津南町・津南見玉公園）秋山郷の入口でひと際目を引く「柱状節理」の大絶壁が眼前に迫ります。問津南町観光協会 ☎025-765-5585 3**日本三大峡谷 清津峡**（十日町市・小出）黒部峡谷・大杉谷と並ぶ日本三大峡谷の一つ。清津峡を鑑賞するための渓谷トンネルでは、水鏡に映り込んだ大峡谷が広がる幻想空間が楽しめます。問清津峡渓谷トンネル ☎025-763-4800

「Tunnel of Light」マ・ヤンソン /MAD アーキテクツ Photo by Osamu Nakamura

北魚沼［魚沼市］
錦織りなす雪の里

1**根小屋の芝桜**（魚沼市・根小屋花と緑と雪の里）約1haの敷地に20万株のシバザクラが咲き誇ります。4月27日～5月12日は「魚沼芝桜まつり」開催。遠くには越後三山も一望でき、新緑・芝桜を一挙に楽しめます。問むつみグループ ☎025-780-4560
2**魚野川桜づつみ**（魚沼市・青島）魚野川にそって続く2㎞の桜並木。ソメイヨシノ、大山桜など、約280本が咲き、遠くには越後三山も望めます。桜の開花は例年4月下旬～5月上旬。問㈳魚沼市観光協会☎025-792-7300 3**ダム湖百選 奥只見湖**（魚沼市）貯水量6億㎥を誇る巨大な人造湖。湖上遊覧は5月下旬から運行。尾瀬への入口、尾瀬口への定期船は6月1日から。問奥只見観光㈱ ☎025-795-2750

南魚沼［南魚沼市・湯沢町］
山野を彩る春の妖精

1**飯綱山古墳カタクリ群生地**（南魚沼市）丸い古墳群を覆う「春の妖精」カタクリ。南魚沼市には飯綱山古墳のほか、六万騎山、坂戸山、八海山、裏巻渓谷の群生地があり、4月上旬から5月初旬頃まで楽しめます。問㈳南魚沼市観光協会 ☎025-783-3377 2**湯沢中里 カタクリの里**（湯沢町・中里スノーウッドスキー場奥）4月下旬～5月中旬。チップが敷かれた遊歩道を散策しながらカタクリ群生を鑑賞できます。問中里観光協会（平日9時～12時）☎025-787-3240 3**湯沢高原パノラマパーク**（湯沢町）シーズンを通じ約200種の高山植物が咲くロックガーデンは日本最大級。緑や花々に囲まれた5つのテラスで贅沢なひとときを。（ロープウェイ4月26日～11月10日予定）問湯沢高原パノラマパーク ☎025-784-3326

※花の開花時期は気候条件等により異なります。各観光協会へお問い合せください。

雪ありて Information
〈2019年4月-5月〉

三国街道塩沢宿武者人形かざり（南魚沼市・牧之通り周辺））4月20日～6月5日。参加約20軒で、明治時代から伝わるご当地塩沢お召し木目込み人形などの武者飾りめぐりを楽しめます。問射干の会 ☎090-7244-2353

花まつり・ゆざわ（湯沢町・湯沢中央公園）4月29日㊗。飲食コーナー、花苗販売コーナー、ちびっこゲームコーナーなど。桜の咲く公園で春を満喫。問花まつり・ゆざわ実行委員会 ☎025-784-1511

2019小出公園さくら・つつじ祭り（魚沼市・小出公園）5月5日㊗。ヘリコプター遊覧やふわふわ遊具、消防戦隊ウオヌマンもやってくる、内容もりだくさんのイベント。問㈳魚沼市観光協会 ☎025-792-7300

十日町きものまつり（十日町市街地）5月3日㊗。きものの里をきもので歩こう、きものストリートなど、街中がきもの一色に彩られます。問十日町きものまつり実行委員会 ☎025-757-3345

きものの街のキルト展（十日町市街地）5月12日～26日。市街地商店街がキルト作品で彩られます。ハギレや小物の販売、予約不要のワークショップも開催されます。問きものの街のキルト展実行委員会 ☎025-757-3345

～職人探訪～十日町きものGOTTAKU（十日町市内12社）5月16日㊍～19日㊐。きもの総合産地十日町市のきもの工場を見学。事前予約制（申込み5/10〆切）。問平日：十日町地域振興局☎025-757-5517 土日祝・開催中：十日町市総合観光案内所 ☎025-750-1277

八海山大倉口火渡り大祭（南魚沼市・坂本神社）5月26日㊐。真赤な炭の上を素足で渡り、家内安全・無病息災などを願います。一般の方も参加できます。問大和観光協会 ☎025-777-3054

大湯温泉山菜まつり（魚沼市・交流センターユピオ）5月中旬。山菜市や魚のつかみ取り、山菜ピクニックなどを予定。問交流センターユピオ ☎025-795-2003

けっとのほかげ（津南町・秋山郷結東）6月8日㊏予定。秋山郷・結東集落の石垣田が、キャンドルの灯りで幻想的に浮かび上がります。踊りや太鼓の演奏など。問津南町役場地域振興課 ☎025-765-3115

南魚沼温泉郷お湯印帳（南魚沼市・参加温泉施設）8月31日まで。南魚沼市の参加16温泉施設をめぐり「お湯印帳」にスタンプを集めると、めぐった数に応じて「おいしい地元特産品」がもらえます。問㈳南魚沼市観光協会 ☎025-783-3377

ディスカバー越後魚沼

石川雲蝶の遊び心は、これだ!!

「遊び心のある雲蝶の作品は凄いね」と人が言う。何が凄いのか、どれが遊び心なのか、その受け取り方は**人によって**違うようである。

欄間1枚、襖絵1枚にしても、表と裏の期待を裏切るそのギャップの凄さ？ 自分の刻銘までも作品の中に残してしまう雲蝶得意の騙しのテクニックの事？

江戸時代とは言っても、明治の新しい御代が控える安政、文久の幕末期。こんなユニークな発想をもっていた彫り物師がいたなんて。

雲蝶が他界した頃、越後の人口は明治21年には全国トップの166万人だった。大阪と北海道を行き来する北前船航路のあった日本海側の方が豊かな傾向にあった。

雲蝶のような彫り師や大工も数多くいただろう。しかし「遊び心」といわれるような表現をされるのは彼の作品の他には見当たらない。

○ ○

撮影許可のない場所で、私が観てきたままに描いた絵で想像していただきたい。

それは西福寺の開山堂の中に彫られてあった。観る者の心を鷲掴みにしてしまう程の彫り物がお堂全体に施されている。雲蝶の遊び心はこの大作の中で、まるで緊張感が緩んでホッとする穏やかな一瞬を感じさせるのである。

1匹のサルが枝振りの良い松の木の大木にしがみついて、何かを取ろうとしている。

私に絵心が無いため実際のイメージとは違うかもしれない。水辺に映った三日月をすくい取ろうとしているサルの姿だという。右手を見ていただきたい。手長サルでもあるまいに、これほど伸びるはずもない。どうしても水に映った美しい月をすくい取ろうとして、右手をありったけ伸ばしたのだろう…。

大作の欄間の奥にはめ込まれた小さな欄間の浅彫り彫刻、実際ご覧いただき、雲蝶の遊び心を感じ取っていただきたい。

観光バスガイド 中島すい子